

科学的思考の基盤【哲 学】

担当教員	鈴木 祐丞	所 属	秋田県立大学
対象学年/開講時期	第2学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 ・哲学・倫理的問題のいくつかについて、論点を整理し理解した上で、それぞれの問題について自分はどのように向き合うか、教員(鈴木)や他の受講生との対話などを通じて、自分自身の考えを形成する。			
授業の形式 講義と対話(クラス全体での討議、グループ・ディスカッション)を織り交ぜながら進める。			
成績評価の基準等 ・平常点(受講態度、授業内レポートの内容、出席状況、対話への貢献度など)80% ・中間レポート 20%			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
	適宜配布、紹介する。	

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	担当教員
第1回	授業についての説明/哲学(倫理学)とは何か 人間にとって倫理とは何か(1)		鈴木
第2回	人間にとって倫理とは何か(2) 「骨髄バンクにドナー登録すべきか」をめぐって		鈴木
第3回	人間にとって倫理とは何か(3) なぜ人は倫理的に行為するのか		鈴木
第4回	生命倫理の諸問題(1) (新型)出生前診断と選択的人工妊娠中絶		鈴木
第5回	生命倫理の諸問題(2)(新型)出生前診断と、 選択的人工妊娠中絶 (つづき)		鈴木
第6回	生命倫理の諸問題(3)安楽死		鈴木
第7回	生命倫理の諸問題(4)安楽死(つづき)		鈴木
第8回	存在肯定の哲学(1)導入		鈴木
第9回	存在肯定の哲学(2)ホネットの承認論		鈴木
第10回	存在肯定の哲学(3)承認と働くこと		鈴木
第11回	存在肯定の哲学(4)人生の意味		鈴木
第12回	存在肯定の哲学(5)人間と宗教		鈴木
第13回	存在肯定の哲学(6)ニヒリズムと現代		鈴木
第14回	存在肯定の哲学(7)人間と言語		鈴木
第15回	存在肯定の哲学(8)存在肯定の問いの解消?		鈴木
修 了 試 験			

学生へのメッセージ 試験の代わりに、レポート(関心のある倫理問題を一つ取り上げ、問題の概要を説明し論点を整理した上で、自分の考えを論じる)を作成してもらう予定です。